

梅之木通信

【週末縄文人の会】

第45号 2024.4.28 発行

縄文ジャングルジムに遊びにきてください！

ちょうど今頃桜の季節を迎えている標高の場所もあれば、新緑が日に日に濃さを増している場所もあり、標高差のあるハヶ岳での暮らしで一番変化のある季節になってきました。世の中も、ゴールデンウィークの真っただ中でなにかとあわただしい時期ですが、いつもは会えないお孫さんの家族などが来られて、日頃のスローライフの生活をかき乱されて疲れ果てている？季節でもあるかもしれません。

梅之木遺跡で縄文住居を建設したノウハウを活かしてオオムラサキセンターの近くに建設していたジャングルジムもなんとか、連休に間に合わせて一応子供たちが遊べるものにすることができました。

どこまでやっても、やりたいことが多くて、『どのようになったら完成？』という最終形が無いのがいつもの縄文人たちですが、緑の中にあるあそび場。皆さんもご家族と一緒に一度遊びに来てください。

☆ 『森のあそびば』のジャングルジム



梅之木遺跡の開放感がある場所と違い、森の中というのも独特な雰囲気があります。



遊びに来ていた5歳の子でも登れました。子どもたちの発想でどのような遊びを考え出してくれるか、想像もできません。

材料の木材はすべて、この森から調達しました。

柱・梁に使用したのは、コナラなどの広葉樹。垂木や横木に使用したものは、ヒノキの間伐材。ヒノキは広葉樹と違い直線的なので、組み上げるのは容易ですが、梅之木で建設したような円形にするのが難しく、縄文住居というよりもピラミッドように見えるかもしれません。

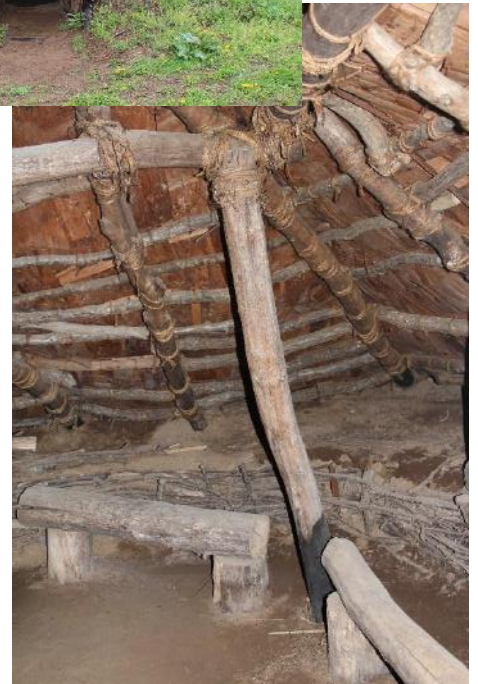
こどものような遊び心はあるものの、こどもの手の大きさ足の大きさをすっかり忘れてしまった高齢者たちは、梯子の間隔を決めるのも一苦労。多くの子ども達に遊んでもらって、感想をまた反映していきたいと思っています。

☆ 梅之木3号棟の改修作業

外からはまったく分かりませんが
3号棟の柱が全体的に谷側（甲斐駒側）
に向かって傾きがみられるようになって
きました。

床を水平にするため
水パイプを作って確認
したりして苦労しまし
たが、傾斜のある土地
であったことからなのか、
屋根に乗せた土の重さ
が原因なのか？

柱の埋め方が甘かった
のか？浅かったのか？
屋根の傾斜角度が大き
過ぎたのか？・・・
いずれにして、危険回避
のため改修作業が必要と
なってきました。



当時のわたしたちにとっては初めての縄文住居建設で、何がどのようになるのかもよくわからず手探りの状態で試行錯誤の連続でした。2020年7月の3号棟完成から4年弱の経過を考えれば、100年住宅ではないので当然の変化なのかもしれませんが、こだわりの強い人の集まりにとっては決して見逃して放置しておける問題ではないようです。

世話人たちで佐野さんや北杜市教育部の学術課長とも相談しながら、改修方法やスケジュールを調整していきたいと思っています。詳細が固まってきましたら、毎月の作業予定や梅之木通信でお知らせしていきますので、また梅之木遺跡での作業を開始したいと思います。

どのように解体するか？ 以前の部材をどのように使用するか？ 新たな屋根の勾配は？ 等々古民家再生のようで、新たな愉しみになるのではと期待しています。

☆ 3号棟改修には、文化庁への申請などが必要になるようで、今のところはっきりとした作業開始時期は明確にはなっていません。『6月後半ごろでは・・・』との予測のもと、しばらくは作業の予定を考えていきたいと思っていますので、作業内容や場所を注意して確認するようにしてください。

☆ なにかと節目節目での宴会好きな週末縄文人は、森のあそびば完成式を5月30日（金）に予定しています。詳細が決まりましたらご連絡しますので、多くの皆さんに参加いただければと思います。